

令和6年度 関西創価高等学校 学校評価

1. めざす学校像

基本方針	「創造性豊かな世界市民」の育成
学校運営	困難に負けない強さと社会の変化に柔軟に対応するしなやかさをもち、自他共の幸福のために貢献する「創造性豊かな世界市民」の育成をめざす。 「校訓」、「創立者とともに」に示された「指針」を諸活動の根幹に置き、「主体的・対話的で深い学び」を軸に、地球的課題の探究を進める。

2. 教育活動における重点項目(中期的目標)

- [I]「創造性豊かな世界市民」の育成
- (1)創立精神学習の深化
 - (2)「グローバルリーダー」としての資質の育成
 - (3)英語力の強化(CEFR・B1レベル以上)
 - (4)ユネスコスクールとしての活動を活発化
- [II]確かな学力で生徒の可能性を最大限に
- (1)生徒の興味・向学心・主体的な姿勢を引き出す魅力ある授業の創造
 - (2)「考える」ことを軸とした授業の展開
 - (3)家庭学習の定着により自学自習習慣の確立
 - (4)キャリア教育の充実
 - (5)豊かな読書環境の醸成
- [III]安心・安全の学校づくり
- (1)キャンパス・校舎・通学路の安全確保
 - (2)生徒との対話を通じた学校生活改善への取り組み
 - (3)いじめ・暴力を未然に防止
 - (4)多様性を尊重し、思いやりの心を育てる「人権教育」を推進

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析[令和7年3月実施分]	学校評価委員会からの意見
○生徒 ・「自学自習」への取り組みが、他の評価に比べて低い。 ・教員から配布される資料の適切さ、教師の授業での話し方等についての評価が高い。 ・授業の総合評価についても7割の生徒が最上位の評価である。 ○保護者 ・生徒の結果同様、生徒の自学自習に対しての評価が、唯一2. 9ポイントと3. 0ポイントを下回っている。 ・生徒が自分自身が「学んでいる」と誇りをもち、保護者に安心していただける「学習観」を生徒・保護者・教員の三者で作りに上げていくことが必要である。 ○教職員 ・昨年同様、授業の創造や「考える」ことを軸とした授業の展開について手ごたえを感じている教員が多い一方で、キャリア教育の項目が低い。すべての教員が自信をもって進路指導ができるスキルを持つことが必要である。	・自学自習に関連して、自習室の新設や充実を検討してもらいたい。自宅での学習には限界があるので、学校で勉強をして帰れる環境を整えてもらいたい。 ・様々な事情で、「教室に入りにくい」生徒への対応について、新しい取り組みが行われていることが分かった。 ・英語学習について、全体的な底上げは行っていると思うが、受験に向けての英語力育成が不足していないか不安である。 ・「探究学習」について、とても意識が高まったと実感している。他校に通っている兄弟が、創価学園に通う兄弟の成長を見て、「自分も同じような学びができていれば」とうらやんでいる。
【分析】 授業の諸項目について生徒・保護者・教員の三者において評価が高かった。教員が日々教材研究や授業スキルの向上に努めており、それが生徒・保護者に承認されていることがうかがえる。この評価に満足することなく、引き続き努力を重ねていきたい。 「家庭学習の定着による自学自習習慣の確立」について、生徒・保護者・教員が共通して課題を感じていることが分かる。学校評価委員会で保護者からの要望があったが、「放課後」、「学校で」落ち着いて勉強ができる環境を整えることについて検討していく必要がある。 昨年に引き続き、「合理的配慮の義務化」について、保護者や有識者の関心が高い。本校でも、昨年から取り組んでいる教室外の学びを評価する仕組み以外にも様々な仕組みづくりを検討していきたい。	

3, 本年度の取組内容及び自己評価

	今年度の重点目標	取り組みの内容	評価	改善点
ユネスコスクールとしての活動を活性化	ユネスコスクールとしての特色づくりに取り組む	本校のユネスコスクールネットワークの内の一校である、アメリカのグラウアースクールとの交流の更なる発展に取り組む。 里山保全の活動に継続して取り組むことができた。	海外のフィールドワークで交流を重ねてきたグラウアースクールとの交流について、今後は本校から訪問させていただきだけでなく、本校にお迎えする計画(2025年度)となった。 竹林の伐採など里山保全の活動に携わることができた。	以前からの目標であった、ユネスコスクールとの相互交流への端緒を開くことができた。これからは、グラウアースクールとの更なる交流を目指してゆくとともに、他校との交流の可能性についても引き続き探っていきたい。 里山保全の活動については、これからも持続可能な形とするために、多くの教員担当者(窓口)を作っていく必要がある。
豊かな読書環境の醸成	教員の積極的な関わりを通し、名著・長編読了に挑戦する生徒を増やす	教員による「ブックナビ・ウイーク」(本の紹介週間)を通して、読書に親しむ環境を作る。 名作駅伝(チームをつくって、準備されたリストから選んだ本の読了に挑戦する取り組み)の実施。 国語科による「ビブリオバトル」の取り組みを通して、読書に組み込み、自分の言葉で本の魅力を説明するプレゼンテーション能力を涵養する。	本年も、前年からの取り組みに継続して取り組むことができた。 名作駅伝の取り組みを通じて、いわゆる「名作」といわれる古典的な名著に挑戦する生徒を増やすことができた。	継続している取り組みは、読書自体に取り組む生徒の増加に寄与している。 「名作駅伝」の取り組みで、従来から課題であった「名作」に挑戦する生徒を増加させることもできた。 これからも、様々な取り組みを通して、生徒の読書「量」は確保しながら、読書の「質」の変化・向上にも取り組んでいきたい。
生徒指導全般の見直し	多様性を尊重し、思いやりの心を育てる「人権教育」の推進	支援が必要な生徒に対して、学年主任・養護教諭・SC・管理職が情報を共有し、その後の支援方針を定めるための「支援委員会」を設置し、毎週情報の共有を図った。 「合理的配慮」の観点から、校内施設に対して検討し、「オールジェンダートイレ」の設置を行った。	「支援委員会」の定期的な開催により、支援を必要とする生徒の情報がスムーズに共有されるようになった。 オールジェンダートイレの設置を契機に、校内の施設の在り方を見直すことができた。	「支援委員会」を定例化することで、各校務分掌間での情報の共有と目線を合わせた対応が可能になった。引き続き行っていきたい。 「オールジェンダートイレ」設置をきっかけとした校内の施設の様々な観点に立った見直しの流れを、単年度で終わらせることなく、今後も継続していくことができるかが重要である。

【学校評価総括表】

大項目	中項目	重点項目	具体的な実践	評価平均値 上段:保護者、下段:教員	達成度評価 上段:保護者、下段:教員	評価の分析・実践と今後の展望
教育活動における重点項目	〔1〕「創造性豊かな世界市民」の育成	1. 創立精神学習の深化	1.GRIT1での創立精神学習を計画的に実施する	3.3	A	2024年度は、生徒・教員が一体となって自分自身と創価教育の「原点」を語り合う会を実施し、教え・学ぶ「創立精神」から、ともに語り合う「創立精神」への転換を行った。
			2.「創立者とともに」を積極的に活用し、行動の規範に ※GRIT における教材化 3.生命尊厳の思想を体得させる	2.9	B	
		2.「グローバルリーダー」としての資質の育成	1.GRIT2での学び(探究学習)をより深化させる	3.2	A	UP講座やグローバルシチズンシップセミナーを行い、毎回、生徒の反応も良い。ただ、UP講座の受講者が特定の生徒に固定化したり、全体の参加者が減少の傾向にあることに対して、改善の方策を考える必要がある。
			2.SDGs や国際的な課題だけでなく、周囲の諸問題を自分事と捉え、解決に向けて具体的に行動できるように促す 3.世界市民教育プログラムの見直し ※精選、充実、リニューアル等 4.国際交流の機会を増やす	2.8	B	
		3. 英語力の強化(CEFR・B1レベル以上)	1.基礎学力の定着の上に、積極的に英語を使う機会を増やす	3.0	A	複数の級で前年を上回る合格者を出すことができた。CEFR A2以上85.4%、B1以上41.0%を達成。今後はB1以上45.0%以上を目指す。
			2.学園の語学教育資産を積極的に活用する	2.8	B	
		4. ユネスコスクールとしての活動を活発化	1.GRIT を通じてユネスコスクールとしての学びに取り組む	3.0	A	例年通り、6月に省エネルギーのための取り組み、9月にフードドライブを実施。アムネスティ・インターナショナルの活動である「チャリボン」への長年の活動に対して、日本の高校で初めて表彰された。今後はユネスコスクール同士での交流を図り、積極的な国際交流やESDの取り組みを進めたい。
			2.ユネスコスクールとしての特色づくりに取り組む 3.ユネスコスクール主催の行事に積極的に参加する 4.ユネスコスクール間の交流を進める	2.7	B	
	〔2〕確かな学力で生徒の可能性を最大限に	1. 生徒の興味・向学心・主体的な姿勢を引き出す魅力ある授業の創造	1.Find アクティブラーナー等を活用し、自己研鑽に取り組む、研究授業・授業公開を通して授業力の向上を図る	3.2	A	家庭科と食堂業者(エームサービス)がコラボレーションし、生徒が考えたメニューが昼食のメニューとして実現する取り組み等、生徒が興味・当事者意識をもちながら学びに向かえる仕掛け作りをした。授業に「探究」を導入し、今年度は「理数探究」も強化した。
			2.先進的な教育手法を取り入れ、特色ある授業作りに取り組む	2.8	B	
		2. 「考える」ことを軸とした授業の展開	1.知識の再構成にとどまらず、修得したものを活用・応用できる力を育む	3.3	A	自己評価・保護者評価ともに向上している。今後も授業における「考える」活動を軸とした授業展開を継続し、生徒の思考力を育成していきたい。
			2.課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育む	2.8	B	
		3. 家庭学習の定着により自学自習習慣の確立	1.スケジュール管理ができるように働きかける	2.9	B	自己評価が2.7から2.3へ低下し、保護者評価は2.9で横ばい。今後「家庭学習」と「授業外学習」の再定義を行い、授業外の学習(放課後や通学の電車等)で取り組んでいる学習の時間の見える化を行っていきたい。
			2.スタディサプリを積極的に活用する	2.3	B	
		4. キャリア教育の推進	1.学年ごとに計画的な進路指導を実施する	3.1	A	キャリアガイダンスセミナー、大学別説明会、進路別(SUA、医歯薬、GCP等)懇談会を実施。創価大学との連携を強化し、キャリアデザイン教育のさらなる充実を図りたい。
			2.キャリアデザインを通し、適切な将来設計を後押しする 3.キャリアパスポート、ポートフォリオ等を活用し、自己理解・自己管理能力を育成	2.7	B	
		5. 豊かな読書環境の醸成	1.教員の積極的な関わりを通し、名著・長編読了に挑戦する生徒を増やす	3.0	A	ビブリオバトルの取り組み、名作駅伝(生徒と教員がチームとなって名作を読み深める)、ブックナビゲーターの取り組みを実施。自己評価が2.7から2.6へやや低下したため、今後さらに読書環境の充実に取り組む必要がある。
			2.探究活動の中で、専門書などの高度な知識にアプローチさせる	2.6	B	
	〔3〕安心・安全の学校づくり	1. キャンパス・校舎・通学路の安全確保	1. キャンパス・校舎・通学路の安全点検	3.1	A	管理職による校内巡回、登下校安全協議会を実施。今後も登下校の安全確保、マナーの向上に継続して取り組む。
			2. 学校内・通学路におけるルールの徹底 3.感染症に対する予防措置の徹底	2.7	B	
		2. 生徒との対話を通じた学校生活改善への取り組み	1.校則の見直し	3.1	A	ルールメイキング活動へ取り組み、自己評価・保護者評価ともに向上した。今後も生徒との対話を通じた学校生活改善への取り組みを継続する。
			2.生徒指導の見直し、生徒指導マニュアルのアップデート・実践 3.対話を通じた学校生活改善・向上への促し 4.犯罪防止策の徹底	2.8	B	
		3. いじめ・暴力を未然に防止	1. アンケートや懇談を通し、生徒の声をよく聴く	3.1	A	生活アンケートの実施・分析を行っている。自己評価が2.7から2.5へ低下したため、いじめ・暴力の未然防止への取り組みのどの部分が低下の原因かを探っていきたい。
			2. 他人を思いやる心の育成 ※創立精神学習との連動	2.5	B	
		4. 多様性を尊重し、思いやりの心を育てる「人権教育」を推進	1. 様々な機会を捉えて、「人権教育」を推進していく。	3.3	A	オールジェンダートイレの設置、人権作文の取り組み・受賞など、多様性を尊重する取り組みを実施。自己評価・保護者評価ともに向上しており、今後もさらなる人権教育を推進していきたい。
				2.7	B	

※評定平均値は、保護者・全教員が4段階で評価した平均値。
 ※達成度評価については、評価平均値の3.0以上をA、2.9～2.0をB、1.9以下をCとした。